1 次の文章Aおよび史料Bを読み，下記の設問(**問1～7**)に答えなさい。なお，出題の都合上，史料は改めたり省略したりした箇所がある。

A　古墳時代には，身分や地位の格差が拡大し，各地の首長たちによって，共通する特徴をもつ高塚式の墓が盛んに築造されるようになった。このことは，日本列島の広範囲を統合する政権の形成を意味すると考えられる。

奈良県桜井市の［ア］古墳は，出現期の巨大前方後円墳として知られ，その築造年代は古墳時代の開始を考えるうえで重要である。この一帯は［イ］遺跡という広大な遺跡であり，総延長2キロメートル以上におよぶ大溝や，宮殿ともされる3世紀の大規模な建物跡が発見されている。(a)この遺跡から出土する土器の15パーセント以上が九州，東海，関東などの他地域の土器であることも注目される。これらのことから，この遺跡はヤマト政権発祥の有力候補地とも考えられている。

(b)3世紀後半から4世紀の古墳時代前期の副葬品には，銅鏡や玉が多いが，4世紀末から5世紀の古墳時代中期には，鉄製武具や馬具が多く副葬されるようになる。こうした変化には，緊迫する朝鮮半島の情勢とのかかわりも指摘されている。前方後円墳は長く日本列島に独自の墓制と考えられてきたが，近年，韓国の西南部にも前方後円墳が存在することが知られるようになり，日本列島と朝鮮半島の双方向的な交流のあり方を示すものとして注目を集めている。6世紀の古墳時代後期には，古墳の主体部として，それまでの［ウ］石室にかわって［エ］石室が盛行するようになり，ここにも朝鮮半島からの影響がうかがわれる。

その後，7世紀には，巨大な古墳の造営によって社会秩序を可視化する行為は低調となり，大陸由来の法や制度を体系的に受容した律令国家が建設されていくのである。

問1　空欄［ア］～［エ］に当てはまる語句を答えなさい。

問 2　下線部(a)に関連して，このことは，この遺跡の性格を推測するうえで，どのような意味をもつと考えられるか，30 字以内で答えなさい。

問 3　下線部(b)に関連して，このことは，古墳に埋葬される人物の性格がどのように変化したことを意味すると考えられるか，40 字以内で答えなさい。

B　臣[注1]，去にし寛平五年に備中介に任ず。かの国の下道郡[注2]に，邇磨郷[注3]あり。ここにかの国の風土記を見るに，皇極天皇の六年に，大唐の将軍蘇定方[注4]，新羅の軍を率ゐ百済を伐つ。百済使を遣して救はむことを乞ふ。天皇筑紫に行幸したまひて，将に救の兵を出さむとす。時に天智天皇太子と為り政を摂す。従ひ行きて路に下道郡に宿したまふ。一郷を見るに戸邑甚だ盛なり。天皇詔を下し，試みにこの郷の軍士を徴したまふ。即ち勝兵[注5]二万人を得たり。天皇大に悦びて，この邑を名けて二万郷と曰ふ。後に改めて邇磨郷と曰ふ。(c)

その後天皇筑紫の行宮[注6]にして崩じたまひ，終にこの軍を遣らず。然れば二万の兵士，弥蕃息[注7]すべし。しかるを天平神護年中に，右大臣吉備朝臣[注8]，大臣といふをもて本郡の大領を兼ねたり。試みにこの郷の戸口を計へしに，纔に課丁千九百余人ありき。貞観の初めに，故民部卿藤原保則朝臣，かの国の介たりし時に，旧記を見るにこの郷に二万の兵士の文あり。大帳[注9]を計ふるの次に，その課丁を閲せしに[注10]，七十余人ありしのみ。清行任に到りて，またこの郷の戸口を閲せしに，老丁二人・正丁四人・中男三人ありしのみ。去にし延喜十一年に，かの国の介藤原公利，任満ちて都に帰りたりき。清行問はく，邇磨郷の戸口当今[注11]幾何ぞととひき。公利答へて云はく，一人もあることなしといへり。謹みて年紀を計ふるに，皇極天皇六年庚申より，延喜十一年辛未に至るまで，纔に二百五十二年，衰弊の速かなること，またすでにかくのごとし。一郷をもてこれを推すに，天下の虚耗[注12]，掌を指して知るべし。(d)(e)

（三善清行「意見十二箇条」）

注1　「臣」……この文書を奏上した三善清行のこと。

注2　「下道郡」……現在の岡山県倉敷市・総社市付近にあった郡。

注3　「邇磨郷」……現在の岡山県倉敷市真備町の地名。

注4　「蘇定方」……唐の将軍。唐の東征軍の総大将として百済を滅ぼし，さらに倭と百済の残党の連合軍を破った。

注5　「勝兵」……すぐれた強い兵のこと。

注 6　「行宮」……かりみや。天皇行幸の際の仮の滞在所。

注 7　「蕃息」……盛んに増えること。

注 8　「右大臣吉備朝臣」……吉備真備のこと。

注 9　「大帳」……計帳のこと。

注10　「閲せしに」……調べたところ。

注11　「当今」……現在。

注12　「虚耗」……すりへってなくなること。

問 4　下線部(c)に関連して，

(1)　ここでは「皇極天皇の六年に」とあるが，この出来事は，実際には皇極天皇が重祚した［　オ　］天皇の時代の出来事である。

空欄［　オ　］にあてはまる語句を答えなさい。

(2)　この「救の兵」が失敗に終わった後，唐や新羅の侵攻を防ぐため，渡来系の技術を用いて，九州北部や瀬戸内海沿岸の各地に設置された防御施設を何というか，答えなさい。

問 5　下線部(d)に関連して，正しく述べた文を次のア～エから選びなさい。

ア　正丁は，21～65 歳の男性で，律令制下の正規の課役負担者であった。

イ　正丁は，21～60 歳の男女で，律令制下の正規の課役負担者であった。

ウ　老丁は，61～65 歳の男性で，調の負担は正丁の 2 分の 1 であった。

エ　中男は，17～20 歳の男性で，租の負担は正丁の 4 分の 1 であった。

問 6　下線部(e)に関連して，史料Ｂの書かれた時代には，律令制的な地方支配体制がどのように変質していたと考えられるか，想定されるおもな要因を踏まえて，50 字以内で答えなさい。

問 7　史料Bに示された地方の現状に対して，作者である三善清行は律令制的な地方支配の立て直しを提言した。しかし，次第に政府は，現実に合わせて税の確保を目指すようになり，地方支配の実質を受領に委ねるようになっていく。こうしたなかで，

(1)　史料Bの書かれた時代に登場していた，田地の耕作を請け負う有力農民を何というか，答えなさい。

(2)　(1)の登場を踏まえて10世紀に成立した，土地を基礎とする新たな徴税体制について，50字以内で説明しなさい。

2 次の文章A・Bを読み，下記の設問(**問1～8**)に答えなさい。なお，出題の都合上，史料は改めたり省略したりした箇所がある。

A　奈良の東大寺は，治承4年(1180)に平清盛の子重衡(しげひら)の南都焼討によって，堂宇の殆(ほとん)どを失った。大仏も焼け落ちるなど，南都の惨状を聞いた公家の悲嘆は大きく，右大臣九条兼実は日記に「当時〔現在〕の悲哀，父母を喪(うしな)ふより甚し」と記すほどであった。

翌養和元年に清盛が病没すると，院政を再開した後白河法皇(a)は，東大寺の復興をはかり，東大寺造営勧進職に重源を抜擢した(b)。かつて重源は五台山巡礼のために入宋(c)しており，そのときに培われた経験や人脈に期待がかけられたのであろう。

重源は宋人の陳和卿を招き，みずからも東奔西走して，東大寺の再建を推し進めた。まず大仏の再建が成り，文治元年(1185)に後白河法皇を導師として開眼供養が行われた。つづく大仏殿の再建では，周防国(d)などで切り出された大量の材木が奈良に送られ，御家人も輸送に協力したという。建久6年(1195)，大仏殿落慶供養は後鳥羽天皇・源頼朝・北条政子ら臨席のもと盛大に催された。

その後，大仏殿の諸像の制作や，南大門の再建(e)などを経て，建仁3年(1203)に東大寺総供養が遂げられた。伽藍の復興とともに，教学の研究も盛んになり，鎌倉時代を通じて優れた学僧が輩出した。

問1　下線部(a)は，民衆の間で流行していた歌謡を好み，みずから『梁塵秘抄』を撰したことでも知られる。この法皇が愛好した当時の流行歌謡を漢字2字で何と呼ぶか，答えなさい。

問2　下線部(b)について，

(1)　「勧進」とは何か，簡潔に述べなさい。

(2)　東大寺造営勧進職に重源を推挙したのは，浄土宗の開祖とされる法然であったといわれる。法然の説いた教えについて，40字以内で説明しなさい。

問 3　下線部(c)に関連して，

(1)　10 世紀末の入宋僧で，五台山を巡礼し，宋版大蔵経や釈迦如来像を日本に持ち帰った東大寺の僧は誰か，答えなさい。

(2)　重源が入宋した当時，ある国家によって五台山は占領されており，巡礼は果たせなかった。女真族が建てたその国家の名称を，漢字 1 字で答えなさい。

(3)　五台山巡礼を断念した重源は，ある入宋僧と現地でたまたま出逢い，以後，帰国するまで行動を共にした。『喫茶養生記』『興禅護国論』などの著作を残したその僧は誰か，答えなさい。

問 4　下線部(d)について，

(1)　「周防」の読みを答えなさい。

(2)　室町時代にこの地を本拠とした守護大名は何氏か，答えなさい。

問 5　下線部(e)について，

(1)　東大寺の諸像の制作には，奈良仏師が活躍した。そのうちの一人で，快慶らとともに大仏殿の諸像や南大門の金剛力士像を造り，また晩年には，一門を率いて興福寺北円堂の諸像を制作した仏師は誰か，答えなさい。

(2)　東大寺南大門に採用された，巨大な建造物に適した建築様式を何というか，答えなさい。

B　鎌倉幕府の後押しで皇位についた後嵯峨天皇は，在位4年で子の後深草天皇に譲位し，院政を敷いた。承久の乱を経て，幕府は朝廷に対して優位に立ち，さまざまな局面で朝廷に干渉(f)するようになっていた。後嵯峨院政下では，幕府の求めによって制度の改革がはかられたことが知られている。やがて後嵯峨上皇は，後深草天皇を譲位させて亀山天皇を立て，さらに，その皇太子に亀山天皇の皇子(のちの後宇多天皇)を立てた。後嵯峨上皇のこうした動きが，のちの皇統の分裂の要因となった。(g)

文永9年(1272)，後嵯峨上皇は次の治天(天下の統治者の意)を指名せずに亡くなった。後深草上皇の院政か，亀山天皇の親政かを，定めずに亡くなったということである。治天の決定は幕府に委ねられたが，幕府も専断することはせず，大宮院(後嵯峨の中宮で，後深草・亀山の生母)に意見を求めた上で，亀山天皇を治天と定めた。この決定に対して，後深草上皇は不満を抱き，みずからの子を皇位につけるべく，幕府に働きかけてゆくことになる。(h)

問6　下線部(f)に関連して，

(1)　承久の乱ののち，京都守護に代わって，朝廷の監視や西国御家人の統轄，洛中の警備などをになう機関がおかれた。この機関の名称を答えなさい。

(2)　幕府の求めに応じて，後嵯峨上皇は皇子を皇族将軍(親王将軍)として鎌倉に下向させた。鎌倉幕府6代将軍となったこの皇子は誰か，答えなさい。

問7　下線部(g)について，寛元4年(1246)に院［　　］衆がおかれ，上皇の臨席のもと院［　　］を開催し，訴訟などを処理するようになった。

空欄に当てはまる語を漢字2字で答えなさい。

問8　次の**史料**は，足利氏の立場で書かれた歴史書の，『梅松論』の一部である。下線部(h)に対して，『梅松論』では，亀山天皇の子孫で皇位を継承するように，という後嵯峨上皇の遺言があったと語られている。

(1)　亀山天皇の皇統を何と呼ぶか，漢字4字で答えなさい。

(2) 『梅松論』の作者は，後嵯峨上皇の遺言を無視した皇位継承が行われていたと主張することで，どのようなことを示そうとしたと考えられるか。**史料**で語られている，上皇の遺言が反故にされた経緯に注意して，50字以内で述べなさい。

史料

爰(ここ)に後嵯峨院，(中略)遺勅に宣(のたまは)く，「一の御子(みこ)後深草院，御即位あるべし。おりゐ[注1]の後は，長講堂領百八十ヶ処を御領として，御子孫永く在位の望(のぞみ)をやめらるべし。次に，二の御子亀山院御即位ありて，御治世は累代敢へて断絶有(ある)るべからず。子細有(ある)に依(より)てなり。」と御遺命あり。(中略)後深草院の御子伏見院[注2]は一の御子の御子孫なるに，御即位ありて正応元年より永仁六年に至(いたる)る。次に伏見院の御子持明院[注3]，正安元年より同三年に至(いたる)。此(この)二代は，関東[注4]のはからひ，よこしまなる沙汰あり。

(中略)此(かく)の如(ごと)く，後嵯峨院の御遺勅相違して御即位転変せし事，併(しかしながら)[注5]関東の無道なる沙汰により，いかでか天命に背かざるべきと，遠慮[注6]有(ある)人々の耳目を驚かさぬはなかりけり。

(『梅松論』)

注1 「おりゐ」……譲位。

注2 「伏見院」……伏見天皇。

注3 「持明院」……後伏見天皇。

注4 「関東」……鎌倉幕府。

注5 「併」……ことごとく。すべて。

注6 「遠慮」……思慮。

3 次の文章ならびに**史料**を読み，下記の設問(**問1～5**)に答えなさい。なお，出題の都合上，史料は改めたり省略したりした箇所がある。

文書や記録は，記した人物の置かれていた立場や，記された当時の政治や社会の状況を踏まえて解釈をすると，深く理解することができる。以下の史料は，元治元年(1864)に執筆が完成した，幕末の政治過程に関する記録である。

史料

今年を過(すぐ)る事十二ヶ年の以前，嘉永六癸丑年季夏[注1]三日，北亜米利加合衆国の使節と称し，ペルリと云(い)へる者，四艘の軍艦を率(ひきい)て，不意に相州浦賀へ来着して，(a)国書を携へ，日本の国の為に渡来して，大君主に是(これ)を献ずと云々(うんぬん)。(中略)

斯(かく)て同九日，(b)儒家林大学頭健，命を奉じて浦賀へ赴き，使節に対面し，国書を請取，江城[注2]へ帰りて閣老に捧(ささ)ぐ。則(すなわち)(c)大樹公の御前に於て，各(おのおの)来翰[注3]を披見せられける，其(その)趣は，

> 近世万国，追々交際の道盛んに開け，西洋各国交通せざらはんなし。(d)貴国のみ往古より各国と交りを絶(たち)て独立せり。然(しか)りといへども当今の形勢，豈(あに)貴国たりとも交際の道開けざらんや。故(ゆえ)に皇国・西洋の差別なく，両民互(たがい)に和親を結び，交際あらんを取扱ふべきなり。

と，己(おの)が国の威を示張し，若此儀(もしこのぎ)の整はざるに於ては，兵端を開く[注4]べき，の筆意著(あら)はれければ，大樹公，猶(なお)も御心慮を悩(なやま)したまひ，(後略)

(e)(『元治夢物語』巻之壱)

注1　「季夏」……6月のこと。

注2　「江城」……江戸城のこと。

注3　「来翰」……送られてきた手紙のこと。ここでは「国書」を指す。「国書」は英文で書かれており，漢文・蘭文のものも渡された。

注4　「兵端を開く」……戦争を始める，という意味。

問 1　下線部(a)について，

(1)　「国書」の差出者である「北亜米利加合衆国」の大統領は誰か，答えなさい。

(2)　この時期に「北亜米利加合衆国」が日本へ「国書」を送り，両国間の「交際」・「交通」を求めた理由を，当時の「北亜米利加合衆国」の領土の変遷も念頭に置きつつ，65 字以内で説明しなさい。

問 2　下線部(b)について，この時幕府を代表して浦賀（実際には久里浜）で「国書」を受け取ったのは浦賀奉行であり，林健は幕府の「儒家」として「国書」の和訳にあたっている。これに関連して，

(1)　林健は，当時儒学を家職とする旗本である林家の当主であった。旗本としての林家の初代で，徳川家康に仕えた人物の名前を答えなさい。

(2)　林健が名乗った「大学頭」は，律令制における式部省大学寮の長官を指し，近世には元禄時代に幕府が名乗らせて以来，代々の林家当主が継承した官職であった。

　元禄時代の林家当主の名前を答えたうえで，「大学頭」の読み方を，ひらがなで記しなさい。

(3)　寛政の改革で，幕府は儒学の学派である朱子学を正学とし，林家の主宰していた［　ア　］学問所で朱子学以外の教授を禁じた。［　ア　］学問所は徳川綱吉により整備された孔子廟付属の学問所であった。この学問所はのちに幕府の直営とされ，［　イ　］学問所と改称された。

　空欄［　ア　］・［　イ　］に当てはまる語句を答えなさい。

(4)　幕府が朱子学を重んじた理由につき，50 字以内で説明しなさい。

(5)　林健が「国書」の和訳を提出した「閣老」とは，幕府の老中を指す。当時老中首座を務めていた人物の名前を答えなさい。

問 3　下線部(c)について，「国書」の宛先とされた当時の「大樹公」は病床にあり，6 月 22 日に没している（公表は 7 月 22 日）。ここでいう「大樹公」とは誰か，答えなさい。

問 4　下線部(d)に関連して，

(1)　下線部(d)は，この記録の著者の記した「国書」の趣旨の一部であるが，「国書」の本文をみると，「国書」が記された当時長崎で通商を行なっていた 2 ヶ国以外の国との交易が開かれていないことへの批判が述べられている。

「国書」が記された当時，長崎で通商を行なっていた 2 ヶ国の名称を答えなさい。

(2)　「国書」が記された当時，日本は東アジアの 2 つの国家から外交使節を受け入れていた。2 つの国家の首都（王都）の名称を，それぞれ漢字で答えなさい。

問 5　下線部(e)に関連して，この記録の著者は，筑前国福岡藩の御用達商人を務めていた。「国書」の趣旨を，この記録の著者が執筆当時に知ることができたのはなぜか。受領された「国書」へ対応するために老中首座のとった措置を念頭に置き，考えるところを 70 字以内で述べなさい。

4 次の**史料**を読み，下記の設問(**問 1 ～ 6**)に答えなさい。なお，出題の都合上，史料は改めたり省略したりした箇所がある。

史料

日露戦争後世界大戦(a)に至る時代は我国資本主義の進歩著しく(b)世界大戦の好条件に依り欧米列強に伍し得るに至つた時期である。

即ち日露戦争後国威一段と伸張せられ，多年の宿志である

[ア] の撤廃

[イ] の回復

を実現せしめることが出来，従来欧米諸国に安価に輸出してゐた原料を国内に於て製造加工して外国と通商するに至り，更に一歩を進めて海外より原料を仕入れ是(これ)を国内に於て製造加工した上，世界の市場に於て欧米諸先進国とその声価を争ふ準備に取掛るに至つた。この願望は，世界大戦当時欧洲諸国の戦争に没頭したる間に乗じて達成せられ，或(ある)種産業に於ては欧米諸国を凌ぐ程に発達し(c)，我国は欧米先進国に伍し得る近代的商工資本主義国として完成せられた。

斯(かか)る商工業の発達，資本主義の成長と相平行して，政治界に於ては政党勢力が次第に閥族政治家に代つて行つた。

大正元年十二月五日西園寺内閣が軍部の主張する [ウ] に反対し陸軍大臣の後任者を得られずして総辞職し，桂太郎公爵が宮中を出でて内閣を組織するに至つた。(中略)政友会其(その)他は西園寺内閣の瓦解及桂内閣の出現は長州軍閥の陰謀によるものであると宣伝し，所謂「憲政擁護運動」(d)を起し輿論の喚起に努めた。(中略)

尚此(この)時代に注意すべき出来事は憲法学説上，久しく争はれて来た美濃部達吉博士，上杉慎吉博士の両学説が大正年代の始めに於て [エ] 中心主義を認むる美濃部博士の天皇機関説(e)が勝利を占めて一般に流行するに至つた事である。

(斎藤三郎『右翼思想犯罪事件の綜合的研究』)

問 1 空欄 [ア] ～ [ウ] に当てはまる語句を答えなさい。なお，空欄 [ア] の撤廃の実現は日露戦争より前である。

問 2　下線部(a)は第一次世界大戦を指す。この大戦の講和条約(ヴェルサイユ条約)によって，日本はドイツがもっていた［　X　］の権益の継承を認められ，赤道以北の旧ドイツ領南洋諸島の［　Y　］を得た。

空欄［　X　］・［　Y　］に当てはまる語句を答えなさい。

問 3　下線部(b)は，日清戦争後に進展する「産業革命」と深い関係がある。18 世紀にイギリスで始まり，その後各国に広まった「産業革命」とは何か。65 字以内で述べなさい。

問 4　下線部(c)に関連して，第一次世界大戦期に著しい発展を遂げた日本の産業の一つに化学工業が挙げられる。

(1)　発展を遂げた化学工業の分野を 3 つ答えなさい。

(2)　化学工業の発展の理由を，25 字以内で説明しなさい。

問 5　下線部(d)に関連して，

(1)　この運動によって当時の内閣は総辞職した。この出来事を何というか，答えなさい。

(2)　憲政擁護とは，憲法に規定されている［　エ　］に基づき，国民の参政権を基礎とする立憲政治を確立しなければならないという主張である。

空欄［　エ　］に当てはまる機関を答えなさい。

(3)　この運動の中心人物の一人で，当時立憲政友会に所属し，「憲政の神様」とも呼ばれた人物は誰か，答えなさい。

(4)　この運動の後に誕生した山本権兵衛内閣も長くは続かず，シーメンス事件で 1914 年に倒れた。シーメンス事件とは何か，25 字以内で説明しなさい。

問 6　下線部(e)と対立した憲法学説の内容を，30 字以内で説明しなさい。